

# 第8回アンチキルケばか詰作品展

## 解説編

開 催： 平成18年 5月 1日

解答締切： 平成18年 5月25日

解答発表： 平成18年 6月 1日

たくぼんの解図日記

<http://takubon-tumeshougi.269g.net/>

アンチキルケばか詰入門

<http://www2.dokidoki.ne.jp/takuji/tumeshougi/AntiCirce.html>

初級の部

初1. たくぼん 作

アンチキルケばか詰 5手 正解者9名

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲ 飛
									二
		と				角			三
			歩		卒				四
				王					五
									六
									七
									八
									九

【詰手順】

51 飛 64 玉 55 飛成 迄 3手詰

【作者コメント】

希望を込めて……

【解説 (のようなもの)】

初手の限定打+立体曲詰というだけですが、私の夢がいっぱい入っています。

【短評】

若林「なるほど、V→Vですか。完成品ですね。」

隅の老人 B「カーブ優勝、偉い望み。賭けても良いよ、たくぼんさん。一阪神ファン。」

☆カーブが育てた選手を持っていくなんて……ひどいひどすぎる……(悲)

橋本孝治「最初はただの手筋物だと思ったのですが、全部解いてから振り返ると難解な短4のヒントに見えるから不思議。」

☆短4は自力で解いていないので気付きませんでした。

小峰耕希「狙いは初形・詰上り同一？ それとも初手？

後者については、もずさんの傑作(3手目 51 角)が既にありますが、それを初級向けにアレンジするところなるってところでしょうか。」

☆限定打打ってすぐ成り立体曲詰です。

北村太路「立体曲詰という傑作！パチパチ。」

小五郎「戻らせない 51 飛限定の好打！」

もず「Vというよりも、安全地帯に見えます。」

┌┐┌○

橘 圭吾「取りを可能にする限定打。端的で易しい。」

KAMU「初手の限定の意味づけに気がついて、なるほどと納得。立体曲詰なんですね。」

初2. 吉川慎耶 作

アンチキルケばか詰 5手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
		飛							▲ なし
		銀							二
		王							三
		桂							四
									五
									六
									七
									八
									九

【詰手順】

61 銀生 74 玉/51 玉 52 銀成 迄 3手詰

【解説 (のようなもの)】

第1回のぷらさんの作品を思い出させる小品です。アンチキルケと言えはこの詰上がりが一番らしい形と私は思います。初形1に纏めたとこもなかなかいい感じですよ。まさに初級といった作品です。

【短評】

若林「強いて言えば初手が生なのがキーですか。でも初心の部ってこれくらいの難度が本筋かも。」

☆ですね

隅の老人 B「本壘に滑り込み。好返球でタッチアウト。」  
橋本孝治「これも全部解いてから振り返るとア2のヒントに見えます。(桂を取らせる感覚が何となく…)」  
小峰耕希「この筋も第1回作品展のぷらさん作が決定版に近いので、もしかすると初形「1」を目指しての創作かな？」

☆この収束からの逆算という感じです。

北村太路「こちらも初形曲詰。左側配置の理由は？」

小五郎「シンプルな初形にシンプルな詰上り。」

もず「第1回のぷらさんの作品と同じ構成ですが、3手だと余詰防ぎをおかずにすみますね。」

橋 圭吾「紛れの少なさが残念だが縦一線の初形がよい」

KAMU「2手目にびっくり(初心者なもので)。」

☆この2手目が分かるようになれば初級は卒業です。

初3. 北村太路 作

アンチキルケばか詰 7手



【詰手順】

48 香 56 玉 57 香 67 玉 68 香 58 玉

59 香 迄 7 手詰

【解説 (のようなもの)】

この詰上がりは初でしょう。とはいえ私も考えたことがあり、いかに上手い演出を施すかがポイントです。その点本作は余り凝らずに簡素な初形で実現したところに作者の上手さを感じました。

【短評】

若林「これは綺麗ですね。難度としては初心の部で良いかもしれないけれど、短編のトップバッターでも良かったなあ、と思います。」

☆作者が初級希望でしたので・・・

隅の老人 B「詰上がり図がユニーク。持駒歩なら3枚で良いのに、香なら4枚必要、これが面白い処。」

☆持駒歩3枚でも完全作ですね。その場合は銀2枚が不要です。

橋本孝治「楽しい趣向ですが、玉は47に置く方が私の好み。(玉も回転するのので)。」

☆私も実はそう思いました。紛れは減るかもしれませんが・・・

小峰耕希「49と69の銀を省いて最遠香打で限定出来そう、35角は何故必要?等と思ったのですが、fmに調べさせてみたら両方共ちゃんと余詰防止で働いていました。」

北村太路「詰上図のみが狙い。玉の上下左右に香を置いてみたかった、ということです。」

小五郎「実はこの問題でつまずいてどうにも先へ進めなくなりました。難問?それともひとり勝手に迷路に入ったかな・・・。」

☆小五郎さんが無解でした。初級にしては骨がありすぎたかと反省しています。

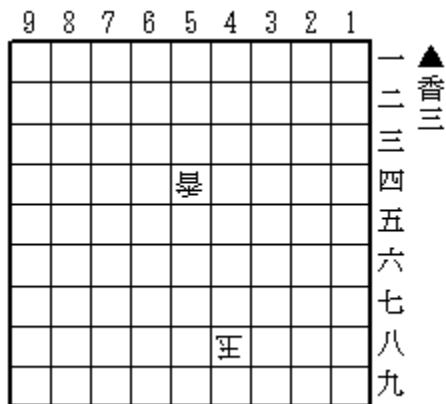
もず「この詰め上がりは初めてでしょうか。まだまだ新しい形があるんですね。短編でも良かったと思います。」

橘 圭吾「考えたことがある詰上がりであるので一瞬でした。」

KAMU「なるほどの詰め上がり。」

#### 初4. 若林 作

アンチキルケばか詰 7手



#### 【詰手順】

49 香 38 玉 39 香 49 玉/51 玉 53 香 41 玉  
32 香成 迄 7手詰

#### 【作者コメント】

手が狭いので初心の部で良いかも

#### 【解説 (のようなもの)】

初手は1つしかないが、2手目どちらに行くか？中に行きたい気もするし、端に追いたい気もするし・・・で正解は・・・端と見せかけて中に戻る。このフェイントの様な動きがちょっと読み難いですね。51に復

活させて詰ますのに気が付くかどうか・・・。54 香の配置がやや暗示でしょうか。

#### 【短評】

若林「短3があると存在価値がないですねえ。簡単であるのは間違いないのですが、54 香配置が。」

隅の老人 B「持駒歩3なら簡単なのに、香3で少し難解？」

☆歩3なら2解ありますね。残念。

橘本孝治「よく考えれば当たり前なのですが、中央に行きたい心理が働くせいか、2手目の38玉がやりにくかったです。」

☆私も同じ感想を持ちました。感覚の問題ですが・・・。

小峰耕希「今月の初級問題は、①②が51を巡るテーマという共通点があり、③④も香がメインという類似性がある。更によく見ると、奇数番号局は玉の復元を許さない手順、そして偶数番号局は玉をあえて復元させるパターンという、2つの意味で対になっている気がします。ただ、初級問題をこのように難しく考えるのは余り良くないかも。」

☆たまたまですね。何も考えていないと言うのが本当です

北村太路「初3の紛れ順が出てきて驚いた。こちらを作意にするのに、5四香一枚で済むのは気づきませんでした。」

☆この辺はとても興味深いところです。

小五郎「登場するのが香だけ、が面白いですね。」

最初から最後まで香だけしか登場しません。これは☆これで珍しいですね  
もず「一度よけてから香を取るリズムが、ありがちながらもいいですね。」



☆普通です。平均点も2点ちょうどで普通でした。

隅の老人 B「42 角の巧打より、65 玉の好走塁。これで得点ですね。C」

☆足を使つての攻撃。昔のカーブはこれが専売特許だったのに・・・

橋本孝治「合駒を出すのは手数が足りない…と思いつつ、やはり合駒を読んでしまいました。ヒモなし両王手の詰上りは、やはり見えにくいです。A」

☆初手4 2 角の紛れはあまり読んでもらえなかったようです。

北村太路「確かに詰んでるなあ。B (fm 使用)」

☆そう思ってくれる人が一人でもいてくれたら満足です

もず「短編の中で一番後に解けました。守備駒がうまく配置されていると思います。B」

☆手は狭いと思ったんですが・・・

橘 圭吾「駒取りは冷静に見ると有り得ないからこれしかない詰上がり。何とかかしこっぼい。」

☆最近かしこでは両王手って創っていないなあ

## 短2. 若林 作

アンチキルケばか詰 7手

▲	▲									▲
						▲				▲
										▲
▲				▲						▲
									▲	▲
▲			▲							▲
						▲	▲			▲

【詰手順】

68 角/88 角 46 玉 35 銀 37 玉 26 銀 28 玉  
55 角 迄 7 手詰

【評価】

自力正解者・・・5名

A・・・1、B・・・1、C・・・3 平均点・・・1.60(5位)

お気に入り投票 : 0

【作者コメント】

もうすこし飛車の自由度を上げたかったけど、時間切れ。

【解説 (のよなもの)】

作者も言われてますが前回の吉川作に手順が似てましたね。右下の配置がいかにも両王手という形をしており作意も見えやすかったようです。途中の繋ぎ部分の銀の動きがアンチキルケらしくなくちょっと新鮮でした。初手以外は普通のばか詰のようです。

【短評】

若林「第7回結果稿を見て真っ白に。どう見ても前回短2の劣化コピーです。すみません。C」

☆私もそうですが解いてしばらくしたら手順って忘れてしまうんですね。

隅の老人 B「初手の王手が、いかにもいかにも。後は普通のばか詰でした。C」

☆本当だ！3手目からは普通のばか詰ルールでも唯一解ですね。

橋本孝治「本来なら紛れが多いはずの作ですが、右隅の配置で作意が見えます。入玉型だと両王手を駒取り復活で逃れる手がないので安心ですし。B」

☆強豪解答者はよく配置を見ています

北村太路「アンチキルケらしい丁々発止のやりとりが

期待されたのだが。はあ。評価：C (fm 使用)」

もず「玉が 28 まで行くとは思いませんでした。手順は露骨ですが逆に面白いと思います。A」

☆もずさんには好評でした。

橘 圭吾「前回のもず氏作に及ばないので・・・」

☆もず作に及ぶ作品はそうそうはありませんね。

### 短3. たくぼん 作

アンチキルケばか詰 9手



【命名】 花火

【詰手順】

65 桂 同と直 75 角 64 と寄 58 飛 57 桂

同角/88 角 54 と左寄 45 桂 迄 9 手詰

【評価】

自力正解者・・・6名

A・・・4、B・・・1、C・・・0 平均点・・・2.80(1位)

お気に入り投票 : 5

【解説 (のようなもの)】

う～む。発表寸前までアンデパンダンにしていたが、バランスが悪かったのでやむなく短編に移動したのに、こんなに好評とは全くの予想外でビックリです。

左右対称の初形と左右非対称の手順で、遊んだ手も無く一応は満足の出来でした。でも5手目の非限定防止の為にだけに配置した自王は「これだけの為に私を置くとは・・・」と怒っています。きっと・・・。

作品展初のトップは嬉しいです。解答者の皆さんに感謝です。

【短評】

若林「限定打、桂の再入手と手順も良いですね。好みです。A」

隅の老人 B「私の彼は左利き、だから初手は 65 桂打。ユニークな初形、57 桂合は妙手。やりますねえ、たくぼんさん。B」

☆私は将棋だけは左利きです。だから 65 桂ですね。橋本孝治「一瞬、OsFM で第 95 回に出題された神無太郎作を思い出しました。

([http://www.abz.jp/~k\\_7ro/solve/solution19.html](http://www.abz.jp/~k_7ro/solve/solution19.html) #第 95 回)

左右対称形から左右非対称の手順が出て大満足です。

A」

☆玉の周りをと金で囲む作品は過去に何作かあったようですね。

北村太路「左右対称の図で手順は対称解許さず(そうじゃないと余詰だけ)。各限定、いつもの合駒を別の駒で取るなど、非常によい。9手なので、飛び散る筈はないのですが、打上花火のくせに3、4段目のと金のはじけないで不動なのがちょっとなあ。ということで命名だけ不満。A」

☆安い将棋駒で裏が赤字で書かれている駒なららしく見えるかも

もず「初形の勝利ですね。88 角の利きで左右を区別で

きるというのが意外でした。A」

☆これは形から創り始めました。途中収束が見えて一気に出来上がり。

橘 圭吾「王配置を除けば完璧な出来上がり。紛れはないが面白い」

☆唯一の欠点を見事に見破られました。王を除けば 2 解 (泣)

### 短4. もず 作

アンチキルケばか詰 9 手

			香	桂					▲なし
									一
									二
									三
									四
		玉		玉					五
				香					六
				王			玉		七
				桂	香				八
				香	銀				九

#### 【詰手順】

36 桂 48 飛 同銀/39 銀 48 飛 同銀/39 銀 58 玉 51 飛 49 玉 59 飛打 迄 9 手詰

#### 【評価】

自力正解者・・・4 名

A・・・1、B・・・4、C・・・0 平均点・・・2.20(2 位)

お気に入り投票 : 0

#### 【解説 (のようなもの)】

連続合シリーズの中の飛車版、連続飛合です。しかし作者はそれだけで終わらず取った飛車を 5 1 への限定打を入れて纏めました。限定の意味は 49 から玉を復

活させないためです。この辺りは妥協を許さない作者らしいところです。ただ思ったほど評価が上がらなかったのは有名税もありますが、初手の感覚がしっくりこないからでしょうか。作者自身の改良案の初手香打のほうが私は良いと思います。

これで連続合いシリーズは、飛・金・桂・歩が発表され残りは角・銀・香です。さて果たして・・・

#### 【短評】

若林「桂の飛ぶ方向が限定されるなら 51 飛か桂が 24 か 64 まで飛ぶとか。後者なら凄かったけど、前者で解決。これは例の筋の位置を変えた飛車版ですね。B」

☆桂の 2 段跳は無理っぽいですね

隅の老人 B「合駒入りは難しい。51 飛打発見で香を取られて嬉しくなる。不思議。B」

橋本孝治「紛れという紛れを全部読まされたので、解くのに 2 日掛かりました。でも苦労した割には感激が薄いです。A」

☆2 手目 5 種の合駒がありますからかなりの紛れ量です。5 1 周辺も戻すのか戻さないのか微妙な駒配置なのでその辺りも悩むところです。

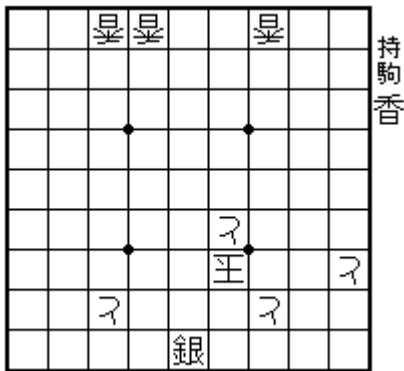
小峰耕希「本局も悪くはないですが、この筋では既に同氏作の名作があるだけに、評価はそれ程伸びないのではという気がします。B」

北村太路「ああ、ああ、そうか。4 九香を取らずとは気づかなかった。テーマはこなしているけど、内容は普通？ B (fm 使用)」

もず「やはり香打から始めたかったです。

このくらいで何とかかなりそうですが、まだ推敲が足りない感じもします。



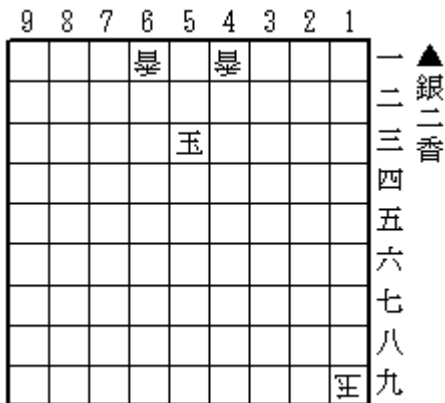


☆紛れは減るけどこちらの方が好みます。

橘 圭吾「見えずに終了。もず氏作はどうも苦手」

### 短5. 太郎@神無一族 作

アンチキルケばか詰 11手



#### 【詰手順】

28 銀 18 玉 27 銀 17 玉 19 香 18 角  
同銀/39 銀 26 玉 15 角 27 玉 36 銀  
迄 1 1 手詰

#### 【評価】

自力正解者・・・8名

A・・・0、B・・・5、C・・・1 平均点・・・1.83(4位)

お気に入り投票 : 0

#### 【解説 (のようなもの)】

最終手は唯一の逃げ場所へ銀を打つという、普通では考えられない手ですがこれがアンチキルケです。何もないスペースに詰上りへの舞台を組み立てて行く様は圧巻ですね。

51 へ復活した時の余詰防止をわずか3枚で抑えたところが作者の実力です。私なら龍とか馬とかと金を配置してごちゃごちゃな印象の駒配置になります。きっと。

解答者は全員正解。これは一つの勲章です。

#### 【短評】

若林「51 に戻る余詰の消し方が面白い。(広義の)イデアルメイト。B」

隅の老人 B「創るのと、解くのと、どちらが難しい？。創る能力(気持)は全くない。でも、ふとそう思う。そんな作品です。C」

☆作る方が簡単。そう思います。是非挑戦を・・・。  
橋本孝治「7手目の2択問題。見事に一回目はハズレを引きました。B」

☆2択問題って私もいつもハズレます。

小峰耕希「短編の解図が苦手(?)な僕でもこれなら解ける。B。」

北村太路「そこそこ難しかった。図は、1九玉がいい感じかもしれないし、4-6一香が悪い感じかもしれない。B」

☆41 香 61 香は無駄がないと思います。

小五郎「角合から 15 角を発見してようやく見えてきました。」

もず「今ひとつ狙いがわかりませんでした。後から眺めると、意外と紛れは多いような気がしました。B」  
 ☆狙いは・・・なんでしょう？それが意外に難しい  
 橋 圭吾「詰上がり探索問題。王がいるので見つけやすい」

.....

【総評】

若林「短編お気に入り：短3。評価通りです。」  
 隅の老人B「短編の部のお気に入りは、3番。理由＝初形、手順共に良し。一位になった時のたくぼんさんのお顔が見たい。一位の感想は、お写真入りでお願いします。でも北村の憲ちゃんほどは、喜ばないでしょうね。」

☆顔は勘弁してください。見たい人は詰パラ400号記念新進作家名鑑参照のこと。

橋本孝治「短編の部お気に入り 短3. たくぼん作」

北村太路「お気に入り：短3」

もず「お気に入り：短3」

【解答成績】

解答者名	1	2	3	4	5
若林	○	○	○	○	○
隅の老人B	○	○	○	○	○
橋本孝治	○	○	○	○	○
小峰耕希				○	○
北村太路	△	△	○	△	○
小五郎					○
もず	○	○	○	○	○
橋 圭吾	○	○	○		○

\*△は fm 使用

解答者数 8名 うち全題自力正解者 4名  
 全題自力正解者は4名と前回より1名減。

【お気に入り投票・結果】

今回のお気に入り投票は投票総数・・・5

順位	No.	作者名	投票	無	A	B	C	平均点
1	4	たくぼん	5	2	4	1	0	2.80
2	2	もず	0	3	1	4	0	2.20
3	1	たくぼん	0	3	1	3	1	2.00
4	3	太郎@神無一族	0	0	0	5	1	1.83
5	5	若林	0	3	1	1	3	1.63

※ 順位はお気に入りポイント順(同点の場合は平均点上位順)

☆ お気に入り・平均点とも私のがトップでした。恐縮する次第です。たまにはいいでしょうか？

A>Bの作品が1作だけとやや低調でしたが、皆さんの見る目もキビシメになってきているようです。作家の皆さん頑張りましょう。

作品展・中編の部

中1. たくぼん 作

アンチキルケばか詰 23手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
						銀				▲
		雀		皇	皇	帝		飛		二
				皇	皇					三
				零			零	帝		四
		皇	帝			銀	手		雀	五
										六
				逃	皇		零	歩	王	七
	王	零		零	桂					八
			歩							九

【詰手順】

99歩 97玉 98歩 86玉 87歩 77玉  
78歩 76玉 77歩 65玉 56銀 54玉  
66桂 44玉 55銀 33玉 32飛生 23玉  
33飛生 22玉 13飛成 31玉 11龍  
迄 23手詰

【評価】

自力正解者…3名  
A…0、B…3、C…1 平均点…1.75(2位)  
お気に入り投票 : 0

【解説 (のようなもの)】

いつものように数あわせでの創作で発表すべき作品ではなかったようですね。要反省です。北村さんの作品が素晴らしいだけに未だ完成感が際立ってしまいました。

狙いは最後に桂(成桂)でのアンチキルケ復活合い防止の為に桂(成桂)の利きに駒を残さない攻め方でしたが・・・

【短評】

若林「”使ってください”という22飛。そして受方持駒歩。歩以外の駒を1枚くらい持たせて、合駒で消費したかったですね。でも収束形は面白いです。B」  
隅の老人B「どこかで変化球?、最後まで直球でした。これアンチキルケ?C」

☆そういえば復活が1度もないなあ。  
橋本孝治「狙いは面白いですが、もう少し凝った展開にしても良いのではないのでしょうか?序の10手が淡泊すぎる気がします。B」  
☆元々は15手以内の作を無理やり中編にしたので・・・

北村太路「飛(龍)で合駒を持っておらず詰みですか。。。中2の詰上図がばれやすくなったなあ。とほほ。中央のやりとりは桂、圭が復活しないようにするため手順が限定になるんですね!なるほど。手順中では1回も復活しないんですねえ。評価:B(fm使用)」  
☆収束が上下で似た感じになったんですね。う〜ん。

中2. 北村太路 作

アンチキルケばか詰 27手

				受	受					▲なし
			龍	受	龍					一
							歩			二
飛			桂	桂	桂					三
									香	四
皇		銀			龍	桂	王			五
					歩	桂				六
				角	受			皇		七
						龍		歩		八
										九

【詰手順】

18歩/17歩 同馬/22馬 19香 18桂成  
同香/19香 26玉 38桂 37玉  
46桂/29桂 28玉 37銀 38玉  
48銀/39銀 49玉 48金 59玉  
58金/49金 68玉 35角 77玉  
44角/88角 87玉 84飛 78玉  
94飛/28飛 69玉 89飛 迄 27手詰

【評価】

自力正解者…5名  
A…4、B…1、C…0 平均点…2.80(1位)  
お気に入り投票 : 5

【解説 (のよなもの)】

今回の作品展の目玉とっていいでしょう。攻方順列7種復活です。歩以外は取った駒を打って、次の駒を取る、取った駒を打つ次の駒を取るというリズムで最後まで進んでいきます。最後までリズムを壊さず最後合利かずの飛車打までと収束も決まり言うことありません。受方7種復活に比べれば難易度は何倍、何十倍にもなると思いますが、その難条件を好作として発表できたことを嬉しく思います。

成功の原因は難しくない手順で好感が持てたということになるでしょう。解答者にとっては満足の一作です。

【短評】

若林「は一。これは凄い。いきなり完全順列、歩以外全て駒取りで入手。解図時は上部追い出しは変化飛ばしをしましたが、33歩の威力もお見事。A」

☆33歩が無いと、歩と桂を入手して歩で2筋を追いかけ43桂 21玉 22と という余詰が発生します。33歩1枚でその紛れを抑えているのはすごいですね。

隅の老人 B

「48銀/39銀で、さてはと思う。終わってみれば、やっぱりそう。今日の私は冴えている。B」

橋本孝治「まずは攻方順列7種復活に拍手。桂ではなく飛に狙いを定める収束も味があります。中編の中だけでなく、作品展全体を通して一番のお気に入りです。A」

☆収束が締まると解後感がぐーっと良くなりますね  
北村太路「攻方順列7種復活。・・・出題されてからしばらくして、攻方には王って駒もあるのを思い出しま

した。まあでも、王が復活して王手ということは、王で直接王手ではなくて、空き王手で他の駒で王手することになるわけで、それなら、復活する駒種なんてどうでもよいわけです。今回は復活した駒が直接王手してるので、王なしでもOK!・・・かな? (作るのに) 楽チンにするため、次に王手する駒を順にもぎとる方式を採用しました。最後何をとろうかと考え、歩に戻る、というのも考えましたが、打歩ルールにしたくないし、手数を延ばすと余詰が面倒そうだったので、飛にしておきました。逆列はどんどん駒が弱くなって、余詰防止とか大変そうな気がします。まだ、皆さんの指摘を見てないので、まずい点に気づいていないし、テーマも達成できているので。評価：A」

☆まずい点の指摘は全くありません。しいて言えば命名が欲しかったでしょうか・・・。

もず「桂打が見えたあたりで趣向に気付きました。すごいと思います。この詰め上がりも面白いですね。A」  
.....

【解答成績】

解答者名	1	2
若林	○	○
隅の老人 B	○	○
橋本孝治	○	○
北村太路	△	○
もず		○

△ はFM使用解答

解答者数 5名 うち全題自力正解者 3名

全題自力正解者は3名でした。難解と言うよりもとっ

つきにくかったというほうが当たっているかもしれません。

【お気に入り投票・結果】

今回のお気に入り投票は投票総数・・・5

順位表

順位	No.	作者名	投票	無	A	B	C	平均点
1	1	北村太路	5	0	4	1	0	2.80
2	2	たくぼん	0	2	0	3	1	1.75

※ 順位はお気に入りポイント順

比べるまでも無く北村作がダントツ。短編で喜んだのもつかの間・・・(悲)

アンデパンダンの部

ア1. 吉川慎耶 作

アンチキルケ打歩ばか詰 5手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
▲	玉									角
										二
		馬		馬						三
										四
	王									五
										六
										七
										八
										九

【ルール注意】

必ず最後は打歩で詰ますアンチキルケばか詰です

【詰手順】

59角 84玉 62馬 93玉 94歩 迄 5手詰

【解説 (のようなもの)】

打歩に関するルールの部分を明確にしておかないといけなかったです。失礼しました。

本作品展は FM に準拠してますので「完全打歩」でいきたいと思います。

最終手を同龍と取るとどうなるのか？その場合龍が82に復活して先手王が詰んでしまいます。(この時初手の角打がが59以外だと同王/59王で逃れます)しかし打歩での詰みではないため禁手となり同龍とは取れないのです。よって詰み。法則系で解答者の注目はそちらへ行ってしまいましたが初手の限定打といい5手詰としては好作といえるでしょう。

【短評】

若林「62馬 73龍 84角 94玉 95歩……じゃ駄目だな。何だろう。というところで91王の意味を考えて解決。法則系は好みです。初手がとても良いです。」

隅の老人 B「法則問題で難しい。相手の裏をかく戦法ですね。」

橋本孝治「ルール解釈でつまづきそうな問題。この問題を出題する場合は、この作品展での「打歩」が「完全打歩」(打歩以外の詰みは“攻守双方とも”禁手)であることを強調しておいた方が良いと思います。」

☆失礼しました。

小峰耕希「この作品展のデフォルト解釈は「完全打歩」だったのですね。以前から双玉打歩でこのような現象が起こるのは知っていましたが、実際に作品の形になっているのを解いたのは初めてです。」

北村太路「どうも詰まんなあ、と思ったら法則系だった！アンチキルケ打歩法則系は前自分でも作ったのにすっかり忘れていました。。(fm使用)」

小五郎「双玉打歩詰。双方の打歩がからむことをすっかり忘れていて悩みました。」

もず「完全打歩のことをすっかり忘れて苦労したのは私だけではない……と思います。」

橘 圭吾「打歩系特有の詰上がり」

☆悩まれた皆さん申し訳ありませんでした。要反省

## ア 2. 吉川慎耶 作

アンチキルケ打歩ばか詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									▲金二桂歩
								王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

【ルール注意】 かならず最後は打歩で詰ますアンチキルケばか詰です

【詰手順】

24 桂 23 玉 22 金 24 玉/51 玉 62 金 41 玉  
42 歩 迄 7手詰

【解説 (のようなもの)】

裸玉の打歩ばか詰です。手順も見所があり充分鑑賞に堪えうるものになっています。吉川さんなかなか好調です。持駒4枚の7手ですから持駒を打つだけですが、ポイントは桂の使い方。たとえば持駒桂の代わりに歩だと13歩 23玉 22金 13玉/51玉と同じようにいけますが、初手22金 13玉 14歩!が成立し

ます。桂だここで玉が桂を同玉とは取れないので初手24桂に限定できます。その桂を取らせ駒にするところが意外性もあり好評でした。

【短評】

若林「綺麗な裸玉。話題はそれですが、後でアンチキルケさせるための質駒をあらかじめ置いておく伏線のある長編なんか実現できたら楽しいですね。」

隅の老人B「裸玉でも変化なし。ここがキルケの嬉しい処。」

☆かしこの裸玉は解いた記憶がありません。解こうと思ったこともありません。その点フェアリーはいいですね

橋本孝治「ひとつでも多く盤面に駒を残したい局面だけに、駒を取る4手目は盲点。裸玉でも手順に見所があると、ちゃんとしたパズルになります。」

小峰耕希「裸玉としては手順もまあまあで悪くないと思う。」

北村太路「取らすとは 思わなかった 完敗だ。初形裸玉で、詰上図は線対称。雰囲気は前回の太郎さんのに似てるかなあ。(fm使用)」

☆これも記憶に残る作品です。

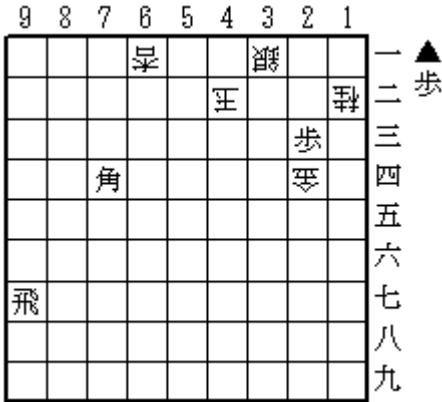
小五郎「”玉は包むように寄せよ”という格言通り? でしょうか。」

☆さすが実戦派ですね。私は”追う手”が得意技ですもず「意外に苦労しました。持駒を見て51に戻る筋をすぐに捨ててしまったのが原因です。」

☆確かに左上で詰め上がりそうな気配がしますね

橘 圭吾「金で挟んで歩の形。これも先週のアがなければ苦戦したかも」

### ア3. 伊達 悠 作



【ルール注意】かならず最後は打歩で詰ますアンチキルケばか詰です

【詰手順】

47 飛 45 桂 52 角成 32 玉  
37 飛 同桂成/21 成桂 33 歩 迄 7手詰

【作者コメント】

盤面七色図式。先月の予想(?)を見事に(?)に実現しました。自信作と言えば自信作でしょう。

【解説 (のようなもの)】

第6回のアンデパンダン3のコメントの中で七色図式を意識した発言がありました。本作は七色を意識しての創作です。とはいえ61成香の必然性はなくちょっと減点。だけど気付いた解答者は皆無でした。

【短評】

若林「退路封鎖をする受駒が合駒で発生するのは良いですね。飛車を手持ちにするのは打ち場所(7~9筋)を綺麗に限定するのが無理そうです。何でもよければ48~68まで歩を並べればできますが、それなら原図のほうが良いですね。」

隅の老人B「配置が広くて、さてどこから?最初に47飛は当たり前、これから悩みが始まった。」

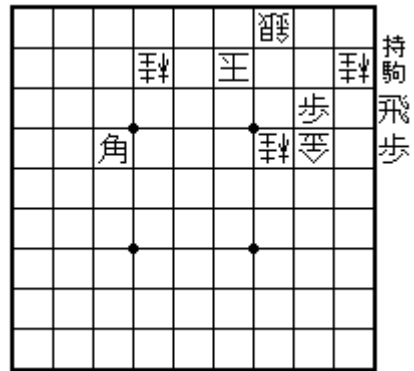
橋本孝治「シリーズ物なので簡単に解けました。61杏の意味は…考えていません。」

☆さすがに橋本さんでも気付きませんでしたか・・・  
北村太路「中合限定&飛2回移動。はいいのだけれど、全然打歩ルールでなくていいと思う。打歩じゃなければ高得点。打歩だから低得点。(fm使用)」

☆打歩でなくても確かに出来そうですね。

もず「桂を成って戻さなくてはいけないというあたりがば自っぼくて面白いです。初手は限定打にしたいと思ったので少しいじってみました。」

アンチキルケ打歩ばか詰 7手



☆初手限定にするには34桂配置が必要。どちらを取るかは好みの問題。

橋 圭吾「中合を飛ばしての詰上がり。切れ味はよい」  
☆普通かしこでも合駒が動けば好作ですが、ばか詰の方が難しいですね

#### ア4. 橋 圭吾 作

					蟹					一 ▲ なし
	龍			龍						二
		龍								三
										四
		王			銀					五
		皇		龍			歩			六
桂	王			銀	飛					七
	帝	龍	龍							八
龍	銀									九

#### 【詰手順】

88 銀 同龍/82 龍 46 銀上 57 角  
 同銀/79 銀 57 と上 33 角 44 銀  
 同銀/39 銀 67 玉 56 銀 迄 1 1 手詰

#### 【作者コメント】

前々回の自作の改作案一号。他の意味付けもあるが完全になりそうにないのでこちらだけ修正。33角だけは駒を置かずに限定する方向で修正。全体的に前作よりはましかもしれないがまだまだ改良の余地はありそうです。個人的にはこれはこれで一作かと思いますがどうでしょうか？

#### 【解説 (のようなもの)】

第6回の作品展で2位となった作品の改良作。合駒を取る位置を5筋にして復活位置の選択を入れたのが工夫です。作者はFM使用環境にない為いつも自力で検討して私がチェックするため何度もやり取りして完成させていきますが、本作締切ギリギリまで完全にならず。最後私が余詰防止駒2枚を無理やり置き発表したものです。ベストではなかったかもしれませんが、手順は秀逸。素晴らしい内容で解答者からも好評でし

た。

57で角を奪った時の復活選択で79へ跳んでおかないと最後銀が入手できないので、79へ復活する為に初形の79の銀を消しておくというストーリーです。かなり虫の良い手順ですがこれが実現されるのでからびっくりですね。これで配置がすっきりしていれば言うことないですが、それは贅沢というものです。

#### 【短評】

若林「さて普通アンチキルケのアンデパンダン。何が出るかな、と思ったら初手79銀の限定消去からの綺麗な手順。短編の部でも良さそうですが、配置の派手さを嫌ったのでしょうか？ 意味づけは2重になりますが、52(73)と→銀配置も面白いですね。」

隅の老人B「伏線、合駒、移動合、もう一度合駒、いろいろあって難しい。」

橋本孝治「最初うっかり"打歩"で解こうとしていました。改良作なので短編の部ではなくアンデパンダンに回ったということでしょうか。困難な構想を強引に実現した「力作」と言えると思います。」

☆改良作&私の修正ということでアンデパンダンにさせてもらいました。

小峰耕希「以前作者自身が馬でやった居食いを、今度は竜でやった訳ですね。個人的には今回の竜ヴァージョンも悪くないと思います。」

北村太路「難しそうな狙いを見事に実現。素晴らしい！」

(fm使用)」

もず「どうせなら88銀捨てを2度繰り返せないでしょうか、って難しそうですね。」

☆橋さん又宿題が出てますよ・・・

橋 圭吾「自作。個人的にはやはり前作の方が締まっ



ていてよいという感じ。改作の仕方が悪いのかもしれないが。改作案を希望したいところです。他の人がどう作るかを見てみたいものです」

ア5. もず 作

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一 ▲
									二 香
									三
									四
									五
				香	香	香	香		六
王	王	王	王	王	王	王	王	王	七
		香	香	王	王	王	王	王	八
									九

【詰手順】

99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 98 歩 同香/99 香 98 歩  
 同香/99 香 88 玉 89 歩 同金/61 金  
 89 歩 78 玉 79 歩 同成銀/71 成銀  
 79 歩 68 玉 69 歩 同成桂/81 成桂  
 69 歩 58 玉 59 歩 同成香/91 成香  
 59 歩 48 玉 49 歩 同成香/11 成香  
 49 歩 38 玉 39 歩 同成桂/21 成桂

39 歩 同馬/22 馬 39 歩 28 玉 29 歩  
 同龍/82 龍 29 歩 17 玉 18 歩  
 同成銀/31 成銀 18 歩 27 玉 28 歩  
 同金/41 金 28 歩 37 玉 38 歩 迄 77 手詰

【解説 (のようなもの)】

第6回作品展の長編の部の北村作が連続歩合16枚で、「あと2つ誰かつけてください」との作者コメントに応えたのが本作。歩の18連続合です。

初手香を打つてみると合駒は歩しかありません。ここからは何枚でも好きなだけ歩を入手できますが、皆さんはきっと18枚を期待し全部取ったことでしょう。

その後は取った歩を使い玉の退路を開きながら右に追っていきます。ここも気持ちよく進んでいく趣向手順です。

収束で気をつけなければいけないのは、2度目の39歩を同馬と取って17を開けておく事です。惰性で28玉と寄れば行き詰ってしまいます。そしてきれいに折り返して最後は突歩詰で詰め上がります。難解さはありませんが条件をこなしているだけではなく手順も全て趣向という感じで完璧な仕上がります。美しい”作品”と言えるでしょう。

【短評】

若林「見た瞬間今回の目玉。氾濫のキルケ呼び出しハガシを思い出させる形。さてしかしハガシ趣向は香歩だけでは無理だ。ということで……あれか！ と期待通りに歩18枚頂いて、しかも受方歩玉以外全アンチキルケ。紛れの少なさからアンデパンダンとして発表される気持ちも分かりますが、これも普通に長編の部でも良かったかも。」

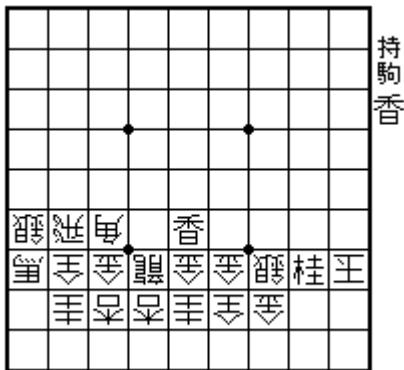
☆長編の部でもAクラスの作品です。

隅の老人 B「全員帰りましたが、玉様だけが戻れない。  
歩 18 枚を上手に使いましたね。打歩詰と勘違いして、  
短手数で詰めてアレ?でした。」

☆アンデパンダンは最近打歩が多いので惰性で打歩で  
詰ます人が続出?

橋本孝治「実は私もこれと同じ狙いの作を作っていて、  
次回の「神無一族の氾濫」に出そうとしてました。も  
ずさんの作を見て慌てて別の作に差し替えたのですが、  
ちょっと焦りましたね。下の図がそれですが、収束が  
締まっている分、もずさんの作の方が遥かに良いです  
ね。」

アンチキルケばか詰 89手



☆水面下で衝突していたとは、七郎さんともずさんの  
衝突は前もありましたね。きっと感性が似ているのだ  
と思います。七郎作は確かに収束がやや流れた感があ  
りますね。(もず作を見たあとだからでしょうが)

小峰耕希「たくぼんさんの冒頭の言葉"もずさんのチャ  
レンジで楽しんでいただきましょう。"で、その時点で  
は出題図を見ていませんでしたが、何を言いたいのかわ  
かりました。つまり北村さん提出の課題「18枚連

続歩合」ですね。そうなれば解図の半分は終りですが、  
玉でどこで詰上るのかでちょっと悩みました。手数計  
算の結果、後半攻方は打歩以外の手を2回しか出来な  
い(つまり玉を下段に追っていく手順は出で出来ない)、  
そして47桂は駒取りをさせる対象ではなく、壁駒とし  
て使えば良いという2点に気付き、もう半分も解決。  
ところでfmでは各駒種共最大99枚まで使用可能み  
たいですが、アンチキルケでは一体何枚まで同一駒種  
の連続合が可能なのでしょうかね? ちょっと興味あ  
り。」

☆もずさんもコメントで言っていますが何枚まで取れ  
るのか?興味深いですね。自分で創ろうとは思いま  
せんが・・・(苦笑)

北村太路「折り返すことができるとは思いませんでした。  
穴が開いていても、余詰まないんですね。折り返  
して18枚使いきれただけで、価値があると思います。  
アンデパンダンにはもったいない。評価:A」

☆私も:A

もず「歩を18枚よりたくさん持たせたらもっといろ  
ろできるかもしれません。」

☆きっと挑戦されることでしょう。

橋 圭吾「この趣向の最終形態。これ以上はない作品。  
美しい作品です。数的にも馬の再生は破調が必要で  
すし。」

☆ ”美しい”という言葉にぴったりの作品です。ま  
さに

.....

【全題正解者】

若林、隅の老人 B、橋本孝治、もず、橋 圭吾  
以上5名

【解答成績】

解答者名	1	2	3	4	5
若林	○	○	○	○	○
隅の老人 B	○	○	○	○	○
橋本孝治	○	○	○	○	○
小峰耕希	○	○		○	○
北村太路	△	△	△	△	○
小五郎	○	○			
吉川慎耶			○	○	○
もず	○	○	○	○	○
橋 圭吾	○	○	○	○	○

△はFM使用解答

解答者数 9名 うち全題自力正解者 5名

.....

【総評】

若林 (5/2 3:29)

「久しぶりのほぼ即日解答です。今回は何を置いても中2とア5が収穫かと。解く立場としては気楽に楽しませていただきました。自作に関しては重ねて申し訳ないとか。」

☆今回の一番解答は若林さん、橋本さんはいろいろ忙しかったようでダントツでした。作品の方では不満もあったようですので、次回は期待しています。

隅の老人 B (5/14 11:37)

「全部で16題も出題されると、私のような年金生活者は別にして、お仕事のある人は、さぞ大変でしょ

うね。好きと暇とで、終日考えることもある。解けたら解けたで、解答(感想)書きが、又大変。よくまあ続くと、我ながら呆れています。数は多くとも、みな好作で解けて嬉しく、また楽しい?長時間を過ごせました。感謝。今回の評価点は、バラ短大石黒教授の評価基準での採点です。」

☆皆さん是非隅の老人 BさんにAを付けていただける作品を発表しようではありませんか!石黒教授の評価基準のAって”看寿賞クラス”?でしたっけ。

橋本孝治 (5/16 21:31)

「今回はちょっと着手が遅れてしまい、第4回PWCばかり詰作品展に急かされる形で、慌てて未解図の問題を片付ける事態に陥りました。遅れる癖がつかないように、いつものペースに戻って行きたいです。」

☆いつも遅れている私には耳の痛い話です。忙しい中解答頂きありがとうございました。

小峰耕希 (5/22 6:46)

「今年に入ってパラの解図に時間を割くようになって以来、本作品展の解答成績は今一。今回も似たり寄ったりですねえ。まあ今回は次回作品展用の新作を1つ送ってますので、その分でご容赦下さい。そうそう、第4回PWCは既に半分以上解けましたので(その中では北村さんの作品が面白かった!）、いつもよりはましな解答成績になりそうです。後は今月のFL(懸賞問題はまだ半分しか解けてない)の解答数を上積みし、OFM第110回出題(そういえばこれもPWCですね)を何とか乗り切って、来月の氾濫初体験に備えたいところですが…。」

☆氾濫全解は私も悲願です。前回出しておけば出来たのに.....って

北村太路 (5/23 18:23)

「一番最初にア5を見て解いて満足した今回でした。  
よかった、よかった。」

☆よかったよかった

小五郎 (5/24 22:55)

「こちらの解答発表は6/1、詰バラの届く日ですね。  
さて予想のサプライズは的中したでしょうか??まだ届  
いてなければ大胆に予想してみてください(^^)」

☆私の予想は絶対顔写真入で表紙登場ではないか  
と・・・私の古い記憶では確かジャーナルでお写真を  
お見かけしたことがあったような気がしています。

吉川慎耶 (5/24 23:29)

「なし」

☆いつもは丁寧な感想を書いてもらえるんですが、今  
回は忙しかったようですね。次回は宜しく願いしま  
す。

もず (5/25 3:14)

「アンチキルケに関してはすぐ思いつきそうなこと  
は出尽くしてきたのかなという感じでしょうか。新し  
いことをやろうとすると余詰防ぎに駒をばらまかざる  
を得ないようになってきました。などと思っていると、  
次に素晴らしい作品が出たりしそうです。」

☆そろそろかなという気もします。たった1つのルー  
ルで短期間に100作以上も発表されたのですからす  
ごいことですね。

橘 圭吾 (5/25 10:41)

「なし」

☆今回は感想書いていただきありがとうございました。  
次回も宜しく願います。

KAMU (5/25 23:49)

「初級しか解けませんでした・・・。でも、私の力  
では上出来かも。」

☆詰備会で無理やりお渡しして「貰った人は必ず解答  
を出して下さい」と言ったのに応えてくれました。感  
謝感謝です。あと二人同じように渡したのですが・・・

(泣) S 藤さんはきっと詰四会にお土産(曲詰)を  
もって来てくれるのかも・・・(しつこい)